



立春に添えて

先日、生徒総会から

要望があつていた「生活のきまり（校則）」の中の靴下の色について回答をしました（遅れて申し訳ない）。内容は、これまで白一色だったのを「黒や紺も可」とするものです。時代の流れに合わせるものでもあるのですが、真意としては、次にあります。



- ・生徒たちの自由度を広げる
- ・世の中は変えていけることを伝える

彼らは先の読めない時代を生き抜かなければいけません。その中で自分の生き方とかふるさとや家族との向き合い方、地域への貢献の方法などを、自分の頭と真心で考え、選択（決断）し、歩んでいかなければなりません。ですので、きまりに囚われるのではなく（実は…きまりは無いのに縛られている項目もあり）、より良い生き方を目指してきまりを変える、きまりがなくても正しく歩む、そのような気概（自分の生き方に対する主体性）を持ってほしいという願いを込めています。（中段へ）

私が尊敬してやまない先達の言葉に、次があります。

稚心を去れ

その先達は入学生を迎える教室の黒板、その真ん中にこれを書かれていたとか。

その昔、日本人の子どもたちは、今という中学生の年頃に元服を迎え、己の幼稚な心を拭い去り、行動や気構え、物事に相対する姿勢等のレベルを一つ上げていました。

- 守られる側から守る側へ
- 受ける側から与える側へ
- 作ってもらう側から創る側へ

この心の向きの転換を経て、きまりという枠の中で閉塞感（不満）を感じながら生きるのではなく、物事の本質を捉え、自覚や覚悟をもって、自分のためだけじゃない身近にいる人や社会のためになる信念を持った生き方を探し、歩みだす——。今回の「靴下」規制の一部解除の回答には、そのような期待を込めているのです。そこで、これらの方針をさらに明確にするために、次年度からの学校教育目標の文言に、次の一語を入れることにしました。

「志を立てる」

「自分の在り方」と「地域（ふるさと）や世の中の在り方」を関連付けて考える。

そのような要素を

これまで以上に

取り入れながら、

本校の教育活動を

推進していきたいと思えます。



《コラム 港町ブルース》

教訓から学ぶ（大川小学校）

教育関係者にとって東日本大震災における大川小学校（宮城県石巻市）での悲劇※は、二度と繰り返してはいけないという決意を新たにしているものです。

先日、久しぶりに尋ねたその地では、被災した校舎を遺構としてそのまま残し、隣に「伝承館」が建てられていました。伝承館のメッセージは「命を真ん中」です。この当たり前の対応があれば、あの日の悲劇はなかったと。

本年一月一日に地震と津波が発生した能登半島の学校では、今、その対応が懸命に進められていることと思います。

これからも他に学び、生徒たちの命を真ん中にした備えを進めたいと思います。

※児童一〇八名中七四名、教員一〇名が犠牲となった。その後の裁判により、学校等の組織的過失が認定された。



被災時に止まった時計

《 主な行事予定 》

《2月》

- 8日（木）公立高校前期選抜合格発表
- 9日（金）中学校入学説明会
（新入生と保護者対象）
- 20日（火）学年末テスト（給食あり）
～22日（木）
- 26日（月）合同高校説明会、
学年育友会（1・2年生）、
評議員会

《3月》

- 6日（水）公立高校後期選抜
～7日（木）
- 14日（木）卒業証書授与式（給食なし）
- 15日（金）公立高校後期選抜合格発表
- 22日（金）修了式・離任式（給食なし）

《心に響いた言葉》 「だから、貴校に入学したいのです！」

高校入試面接試験の練習をする三年生の言葉から。



シリーズ「社会の動向と本県教育を取り巻く現状・課題」
第四期長崎県教育振興基本計画から

第二回：共生社会の実現

今回のテーマには、「ウェルビーイング」という聞きなれない文言が関連しています。まずは、その解説部分を抜粋しました。



経済先進諸国においては、経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて持続的な幸福や生きがい捉える「ウェルビーイング」の考え方が重視されてきています。一人一人のウェルビーイングの実現に向けては、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなる必要があります。教育を通じて社会に根差したウェルビーイングの向上を図っていくことが求められています。

右にある「ウェルビーイング」の対象で、持続的な幸福や生きがいを持てるようにしなければならぬのは、いじめや不登校、性的少数者のほか、特別支援教育の対象となる子どもたち、児童虐待やヤングケアラー、貧困の状態にある子どもたちを含めたすべての子どもたちです。多様な子ども一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を進めるとともに、様々な人々との交流、学び合う機会を確保することで、共生社会の実現を目指していくことが求められています。

〈そこで、中学校（本校）では〉

生徒たちが、持続的な幸福や生きがいを持てるよう、本校では、次のような取組を行っています。（抜粋）

〈多様性を寛容し、高め合う資質の育成〉

- ・ 道徳教育の充実
- ・ 生徒会活動等を通じた啓発活動の推進

〈生徒の「困り感」を拾い集める仕組み〉

- ・ 教育相談、校長面談の実施
- ・ 相談室の運営（心の教室相談員の配置）
- ・ スクールカウンセラーの配置
- ・ 学校評価による調査
- ・ 教科授業に関するアンケート調査

〈学習支援、進路指導・相談〉

- ・ タブレットPCによる遠隔授業支援
- ・ 放課後自主学習の奨励
- ・ キャリア教育の推進

〈情報提供、相談受付〉

- ・ ホームページでの相談機関係紹
- ・ 学校公開、学年育友会

〈校種間の連携〉

- ・ 小中、中高の連絡、相互支援



これらのほか、生徒たちが「教科授業」の中で「ウェルビーイング」を感じることで、できるようになればならないと考えています。専門用語で言ってしまうと「個別最適化された授業」の実現です。授業研究を進め、生徒が「嬉しい気持ちになる」授業を目指していきたいと思えます。

ふるさとの文化・歴史・人物 ― 口之津中教育の視点から

「先輩たち」

来る、二月二十六日、島原半島内一〇の高校等をリモートで結んだ「合同高校説明会」を開催します（中学生は自校から受講）。昨年度から実施しているものですが、今年、高校の校長先生方をお願いしたのは、次の内容です。

「実際に高校生は、どのようなことに一生懸命に頑張っているかという『高校生のがんばり』や『夢や希望へ邁進している姿』などの『熱気』を紹介してください。」

対象は中学一年生と二年生です。他校の中学生も参加します。本校の卒業生もいろんな高校から登場して、熱気にあふれた説明会になると思います。保護者の方々も含め、島原半島を元気に盛り上げていけたらと思います。よろしくお願ひします。

※なお、当日は、県教委の高校入試担当の方から直接、来年度の新しい入試のことについて説明していただける予定です。



【お知らせ…受験期の過し方】

特に三年生は、受験で不安になったり神経質になったり、受験が終わって目標を失ったりするなど、不安定になるかもしれません。そのほか、進学へ向けて御相談になりたいことなどがありましたら、気兼ねなく御連絡ください。よろしくお願ひします。